

# アマノクロウサギから日本の自然環境を学ぼう

- 単元名：「固有種が教えてくれること」（光村図書・小学校5年国語）
- 教材の種類：説明文（科学的読み物）
- 筆者：今泉忠明（動物学者）
- 主題：
- アマミノクロウサギをはじめとする日本の固有種を紹介。
- 固有種が生息する環境の特徴や、人間活動による影響を説明。
- 生物多様性の大切さ、環境保全の必要性を考えるきっかけを与える。

小学校理科「人と環境」の学習内容（学習指導要領より）

- 自然と人間生活の関わり
  - 自然の事物・現象が人の生活にどのように利用されているかを理解する。
  - 人間の活動が環境に与える影響を考える。
  - 例：大気汚染、水質汚濁、ゴミ問題、地球温暖化。
  - 持続可能な社会の視点
  - 資源の有限性を理解し、環境保全の必要性を考える。
  - 例：自然保護活動。
- 6年生：環境問題や持続可能な社会について考える（地球環境、環境保全）

中学校理科 指導要領「人と環境」の位置づけ

- 分野：第2分野（生物・地学領域）
- 単元名：人と環境
- 内容項目番号：〔第2分野〕（6）
- 学習内容の概要：
- 生物と環境の関わり（食物連鎖・生態系）
- 人間の活動が環境に与える影響（大気汚染、水質汚濁、地球温暖化など）
- 持続可能な社会を目指す科学的な視点（資源の利用、環境保全）

高校生物基礎 指導要領（平成30年告示）の内容

- 単元名：「生物の多様性と生態系」
- 内容項目：
- 生物の多様性
- 生物の分類や系統、進化の過程を理解する。
- 生物多様性が人間生活や地球環境に果たす役割を考える。
- 生態系の仕組み
- 食物連鎖・物質循環・エネルギーの流れを理解する。
- 生態系のバランスと人間活動の影響を考察する。
- 環境保全
- 生物多様性の保全の意義を理解する。
- 人間活動による環境破壊（森林伐採、外来種、地球温暖化など）を学ぶ。
- 持続可能な社会の形成に向けて科学的に考える態度を養う。

国語の学習と理科の学習をつなげ  
自然環境の学びを深める。

## 1. 導入（興味関心を高める）

ジオパークとは何かを紹介（地球の成り立ちを学ぶ場）。

国語の学習を思い出しながら奄美大島は「ここには特別な生き物がある」としてアマミノクロウサギを提示。

### **問題1 「なぜ奄美にしかいないのか？」**

## 2. 調べ学習（理科）

ジオパークの地形・地質（火山、地層、カルストなど）と生態系の関わりを調べる。- アマミノクロウサギの生態（夜行性、巣穴生活、固有種としての特徴）を調べる。

### **問題2 「地形や環境が生物の暮らしをどう支えているか」**

## 3. 探究活動（総合的な学習）

奄美大島のジオパークをモデルに「地域と自然のつながり」をまとめる。

アマミノクロウサギをシンボルにして「環境保全の大切さ」を発表。

自分たちの地域の自然と比べて「地域の環境を守るには？」を考える。

## 4. まとめ・表現活動

ポスターや新聞づくり：「ジオパークとクロウサギが教えてくれること」

## 中学校第3学年

### 学習の流れ（全3時間想定）

#### 1時間目：導入「大地の変化と生物」

火山や地層の写真・動画を提示。

「なぜ地域によって生物が違うのか？」という問いを立てる。

奄美大島のアマミノクロウサギを例に、固有種が生まれる背景を考える。

#### 2時間目：探究「人間活動と環境」

資料を使って、人間活動（森林伐採・外来種導入・都市化）が環境に与える影響を調べる。

グループで「大地の変化＋人間活動＝環境への影響」を図式化。

環境問題（温暖化・生態系破壊）を科学的に説明する練習。

#### 3時間目：まとめ「持続可能な社会へ」

ジオパークや世界自然遺産の事例を紹介。

「地域の自然を守るためにできること」を班ごとに提案。

ポスターやスライドで発表し、全体で共有。